

多久ロータリークラブが道路パトロールカーを贈呈



11/30 [Mon]

▶贈呈式で前田会長（左）からレプリカキーを受け取る横尾俊彦市長（右）



多久ロータリークラブから多久市に道路パトロールカーを贈呈いただき、その贈呈式を市役所で行いました。

今回の贈呈は令和元年8月の佐賀豪雨で、市道や河川に大きな被害が発生した多久市に対し、より現場が必要とする支援をとる思いで行っていただきました。

贈呈いただいた道路パトロールカーは、法令に基づいた道路維持作業用自動車のカラーリングが施されています。

贈呈式で前田博彦会長は「新しい道路パトロールカーで市内を駆け巡り、危険な場所をいち早く見つけ、市民の安全を確保してほしい」と、現場での迅速な活躍に期待を込めています。

多久酒と旬の食材を味わう

12/14 [Mon]

自然食レストラン花ごよみ（多久町）で「コラボ de シェフ 2nd」と搾りたての純米大吟醸酒「多久」の販売会（主催：多久未来プロジェクト）が開催され、参加した40人が多久市の新鮮な食材を使った料理と新酒を楽しみました。

このイベントは新型コロナウイルスの影響で苦境にある飲食店を応援しようと、旅館で料理長を務める今木和人さんと市内飲食店がコラボして料理を提供するもの。多久未来プロジェクトの小川三郎会長は「前回到続き好評に終えることができた。3年目となった多久酒もおいしさとかオリティを増している。今後も多久市を盛り上げていきたい」と話しました。



▲爽やかな味わいの多久酒に合う料理が並びました



▲市内3店舗の調理師らと腕を振るった料理人の今木さん

郷土資料館で楽しむ八十八か所巡礼

10/22 [Thu]

12/20 [Sun]



▲郷土資料館に展示された最教寺八十八尊の写真

多久市郷土資料館の開館40周年を記念した秋の企画展「平戸最教寺『四国八十八尊』写真展」を同資料館で開催しました。

郷土資料館には最教寺八十八尊の写真が並んだほか、入館奉拝記念の御朱印紙が配布され、期間中は3,000人以上の来館者が巡礼の雰囲気を楽しみました。

明治時代以前から四国八十八か所を模したものを各地方に置く文化があった中で、平戸最教寺（長崎県）は今もなお八十八尊すべてが現存する珍しい寺。郷土資料館の藤井伸幸館長は「この企画展をとおして日本遺産に指定されている巡礼文化を味わい、多久市にも残る八十八か所の跡を見直すきっかけになれば嬉しい」と笑顔で話しました。